

ラオス教師海外研修

ラオス海外研修の訪問先(日程表)

日付	内容	テーマ	宿泊
8/6 (日)	TG643 成田空港発/バンコク/TG2574 ビエンチャンへ		ビエンチャン
8/7 (月)	JICA ラオス事務所でのブリーフィング	所長、所員より、国概要、ラオスの教育制度説明等	ビエンチャン
	COPE Visitor Center 訪問 【技プロ】貧困削減に資する UXO Lao の実施能力強化プロジェクト JETRO 菊池所長「日本企業のラオスへの進出状況等」@JICA ラオス事務所	JICA 事業視察 現地事業視察	
8/8 (火)	ソークカム小学校訪問(ビエンチャン都) 【草の根技協】ラオス国中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業(ラオスのこども)	JICA 事業視察 交流授業	ビエンチャン
	ナムグムダム訪問 【有償】ナムグムダム第一水力発電所拡張事業・ナムグムダム発電所見学	JICA 事業視察	
8/9 (水)	JICA ラオス事務所 【草の根】農村部住民の食糧事情向上を目指した昆虫養殖技術普及事業(ISAPH)	JICA 事業視察	ビエンチャン
	ラオス国立大学横の道路 【中小企業・SDGs ビジネス支援事業】道路整備を促進するコンクリート二次製品の導入事業に向けた普及・実証・ビジネス化事業(株式会社三幸工務店)	JICA 事業視察	
	ラオス日本センター(LJI)訪問 【技プロ】ラオス日本センタービジネス人材・ネットワーク強化プロジェクト フェーズ2	JICA 事業視察	
8/10 (木)	ミッタパーブ病院訪問 【技プロ】持続可能な保健人材開発・質保証制度整備プロジェクト(DQHP)	JICA 事業視察	ビエンチャン
	ミッタパーブ病院訪問+レスキューチーム訪問 【草の根】交通事故から住民を守る救命救急活動支援プロジェクト(SAFER)(筑波大学)	JICA 事業視察	
	チナイモ浄水場訪問 【技プロ】水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)	JICA 事業視察	
8/11 (金)	08:05 ビエンチャン発 → 09:05 パクセー着(QV305 空路)		パクセー
	パクセー—教員養成校訪問 【ボランティア】宮川純加隊員(理科教育)	ボランティア活動視察	
	チャンパサック県病院訪問 【技プロ】病院の保健サービスの質及び財務管理改善プロジェクト(QHCF) 【無償】セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画	JICA 事業視察	

8/ 12 (土)	パクセー・ジャパン経済特区訪問 【中小企業・SDGsビジネス支援事業】道路整備を促進するコンクリート二次製品の導入事業に向けた普及・実証・ビジネス化事業(株式会社三幸工務店)	JICA 事業視察	ドンコー村
	ドンコー村ホームステイ		
8/ 13 (日)	ワットプー観光(世界遺産)観光		ビエンチャン
	17:40 パクセー発 → 19:10 ビエンチャン着(QV304空路)		
8/ 14 (月)	障害者職業訓練学校 【ボランティア】高根碧隊員(障害児・者支援)	ボランティア活動視察	ビエンチャン
	ドンカムサン教員養成校訪問 【草の根】知的・発達障害を持つ子供の社会自立を目指したインクルーシブ教育・就労支援の実践(「アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)」) 【ボランティア】成田朋美隊員(小学校教育) 【無償】教員養成校改善計画	研修の報告 事業視察	
8/ 15 (火)	報告会(JICA ラオス事務所大会議室)		機内
	TG2575 ビエンチャン発、バンコクへ(21:55 着) TG642 バンコク発、成田空港へ		
8/ 16 (水)	成田空港着、帰路へ		

ラオス海外研修の訪問先地図



ラオス海外研修の様子と研修者の学び

※コメントはすべて参加教員の感想より抜粋

8月7日(月) : COPE visitor Center / JETRO 菊地所長

COPE Visitor Center

所在地: ビエンチャン市内

ウェブサイト URL: <https://copelaos.org/>

ベトナム戦争中のラオスでの米国の爆撃に関する情報を展示している博物館。

●内容

展示の内容について説明を受けるとともに、ラオスの方々の戦争に対する思いなどについても教えていただきました。

●参加者の感想

- ✓ 館長さんの「家族を亡くした方の辛さはあるが、ラオスはアメリカにやり返す気はない。ただ、自分たちでまいたのだから、自分の国に持ち帰ってほしい」というコメントが印象深かった。
- ✓ 公民的分野、世界平和の実現に向けて、冷戦後の戦争や地域紛争の様子と平和への取組について考える授業で、核拡散防止条約やクラスター爆弾禁止条約について触れる際に、なぜ禁止されるのかを理由を深く考えさせる際に役立つ事実。



JETRO ビエンチャン事務所

https://www.jica.go.jp/Resource/priv_partner/case/ku57pq00002avzny-att/case_studies.pdf

●内容

JICA ラオス事務所にて、日本企業のラオス展開を支援している JETRO のビエンチャン事務所・菊地所長より、ラオスの概況(経済状況や日本企業の進出状況等)についてのお話を伺いました。(写真は JICA ラオス事務所)

●参加者の感想

- ✓ 「菊地所長が考えるグローバル人材とは?」と質問すると、①道徳教育を忘れないでほしい②何でも興味をもつ、好奇心のある児童・生徒を育ててほしいとの回答。教職員とともに、「グローバル人材とは?」という内容でディスカッションしたい。



8月8日(火) : ソークカム小学校 / ナムグムダム

ソークカム小学校

プロジェクト名:【草の根技協】ラオス国中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業 (ラオスのこども)

https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/country/ku57pq00001nf9vy-att/lao_29_p.pdf

Facebook ページ: <https://www.facebook.com/deknoylao/>

●内容

「ラオスのこども」のスタッフの方から中等学校への図書室の整備や、学習支援、図書室を活用できるようにするための教員のサポート等の活動内容について何うとともに、事前に準備した内容で子どもたちとの交流授業も行いました。

●参加者の感想

- ✓ 子どもたち、先生方がとても暖かく我々を出迎えてくれ、その姿に感動した。ラオ語を通してコミュニケーションができないことを不甲斐なく感じたが、かるたや動画撮影を通じ、国境・文化を超えた、人と人とのつながりができたことに感動した。
- ✓ 国や文化は違うが、子どもは子どもで、通ずるものがあるように感じた。久しぶりに子どもたちと関わることで、自分自身の子どもに対する気持ちと向き合うことができた。



ナムグムダム

プロジェクト名:【有償】ナムグムダム第一水力発電所拡張事業

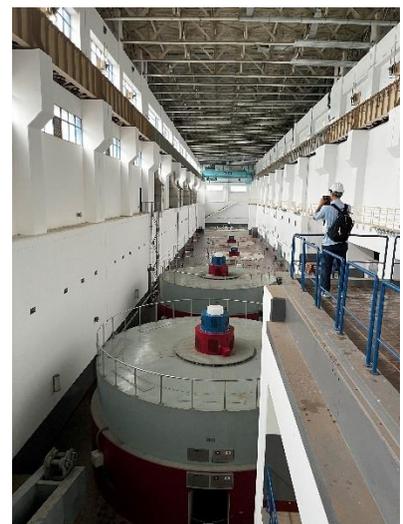
<https://www.jica.go.jp/oda/project/LS-P7/index.html>

●内容

巨大な貯水量である首都近郊のナムグムダムの水力発電所における日本の支援内容や、ダムの関係者からのお話を伺いました。

●参加者の感想

- ✓ 日本人専門家は、効率的に時間を守って仕事を行い、さらに、マニュアル本を作るなど技術を惜しみなく伝えてくれようとする、ということを嬉しそうにお話して下さった。多くの日本人専門家が、長年築いてきたラオスとの信頼を感じる事ができた。
- ✓ ハード面だけをつくっても継続できない。技術を伝え、組織や人材育成システムが構築されることで、自分たちのものとなるというお話が印象的だった。



特定非営利活動法人 ISAPH(アイサップ)

プロジェクト名:【草の根】農村部住民の食糧事情向上を目指した昆虫養殖技術普及事業(ISAPH)

https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/ku57pq00000x9tkg-att/lao_24_p.pdf

●内容

元 JICA 海外協力隊である石塚氏より、協力隊時代の経験や、ISAPH で行っている昆虫養殖事業・ラオスにおける食糧事業などについてお話を伺いました。

●参加者の感想

- ✓ 「昆虫食は世界規模で考えるとマイノリティなことではない。むしろ食さない民族の方がマイノリティ。」ということを学んだ。また、昆虫食の養殖で、食料問題だけではなく、貧困対策にも活躍していることが驚きであった。
- ✓ ラオス人の特徴として、やさしくて、大らか、怒らないという長所の面が、別の側面から捉えると、争いを嫌い、面倒なことから距離を置くので、本質に届かないところがあると表現されていたことが心に残った。本質を追求する場面(教室、仕事の場面)では、多少の衝突が起こることを恐れてはいけないと思った。



株式会社三幸工務店

プロジェクト名:【中小企業・SDGs ビジネス支援事業】道路整備を促進するコンクリート二次製品の導入事業に向けた普及・実証・ビジネス化事業(株式会社三幸工務店)

https://www2.jica.go.jp/ja/priv_sme_partner/document/1290/Fc192601_summary.pdf

●内容

ラオスにおける道路(インフラ)整備やコンクリート製品の活用などについて、実際に整備された道路を歩きながら説明を伺いました。

●参加者の感想

- ✓ 実際に道路を歩きながら説明を受けたので、この日以降、道路への関心が高まった。日本の道路整備の技術が非常に優れていることを実感することができた (SDGs ゴール 9 産業と技術革新の基盤をつくろう)
- ✓ 道路を整備し、側溝を作る事で、様々な問題が解消されたことを学んだ。



ラオス日本センター(LJI)

プロジェクト名:【技プロ】ラオス日本センタービジネス人材・ネットワーキング強化プロジェクト フェーズ 2

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1900285/index.html>

●内容

ラオスにおけるビジネス人材育成機関である同センターにおいて学ぶ学生の方々と交流を行いました。

●参加者の感想

- ✓ 本当の豊かさとは何か?発展することだけが豊かさなのか。文化を守りながら発展していくことも必要なのでは。
- ✓ ラオスの日本語専攻の大学生と触れ合い、言語が通じると嬉しい・理解してもらえる・安心するという気持ちになる。今回はラオスの大学生が日本語を話せたからやりやすかったけれど国際理解のためにはこちらも歩み寄りが必要だと感じた。言葉がすべてではないが、言葉と文化は表裏一体のため、まず第一歩として言葉を知ること。それによる「歩み寄り」の重要性を認識した。



8月10日(木) : ミッタパープ病院 / チナイモ浄水場

ミッタパープ病院

プロジェクト名:【技プロ】持続可能な保健人材開発・質保証制度整備プロジェクト(DQHP)

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1600279/index.html>

プロジェクト名:【草の根】交通事故から住民を守る救命救急活動支援プロジェクト(SAFER)(筑波大学)

https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/ku57pq00000x9tkg-att/lao_25_p.pdf

●内容

医師・助産師・看護師といった医療従事者の免許制度の整備等の保健人材の質の向上や救急医療体制の整備についてお話を伺いました。

●参加者の感想

- ✓ ラオスでは公共の機関としてのレスキューがないので、ボランティアで人々が行っている。「ボランティアをやったら人を助けられるのになんでやらないの?」と病院にボランティアに来ていたラオス人の女性が話していたのが印象的だった。
- ✓ 帝京大学の先生と大学生たちが、ラオスの高校の体育館を使って、ボランティア隊員たちに技術指導をしていた。帝京大学の先生の「積極的な許容」という言葉が印象に残っている。給与をもらわず、責任感で行動しているラオス人のボランティア隊員が、モチベーションを保ちつつ、訓練に積極的に取り組み続けるために、学び手の現状に合わせて教育を行うことはどのような場面でも大切だということを学んだ。



チナイモ浄水場

プロジェクト名:【技プロ】水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1700437/index.html>

●内容

ラオス全国における水道整備事業や、水道整備の意義などについて実際に浄水場を見学しながらお話を伺いました。

●参加者の感想

- ✓ 綺麗な水を整えれば整えるほど、感染症を患う人が減るというグラフを見て、日本の技術がラオスの豊かさに貢献している場面を見ることができた。
- ✓ 浄水の学習において、ラオスの現状とも比較しながら学ぶことで、新しい気づきを得られるような仕掛けを作りたい。



パクセー教員養成校

●内容

全国に8校ある教員養成校の一つである本校において、校長先生や教師の方々、また現在、理科教育のJICA 海外協力隊として活動中の宮川純加隊員よりお話を伺いました。

●参加者の感想

- ✓ 国民性や国の構造も関係するとは思いますが、教員一人一人の哲学が違えば、教育の内容も本質的な部分では日本とは変わってくるのではないのでしょうか。相手国の要望を受けて、支援を検討していく形はとても大切な仕組みであると改めて感じた。



チャンパサック県病院プロジェクト名:【技プロ】病院の保健サービスの質及び財務管理改善プロジェクト (QHCF)

<https://www.jica.go.jp/oda/project/2005066/index.html>

プロジェクト名:【無償】セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1760500/index.html>

●内容

病院における保健医療サービスの質向上・維持や医師・看護師の研修環境の改善などの活動についてお話を伺いました。

●参加者の感想

- ✓ ラオスの病院の技術レベルは日本よりも低いですが、ラオスの文化に沿った働き方や、看護の仕方を考えることが大切という話が印象的だった。
- ✓ 家族と一緒に寝泊まりしてお世話をすることや、死ぬ前に村に帰ることなど、考えさせられた。相手のことを大切にする、相手の立場にたって考えるとはどういうことか?という授業実践をしたい。



8月12日(土) : パクセー・ジャパン経済特区 / ドンコー村ホームステイ

パクセー・ジャパン経済特区

プロジェクト名:【中小企業・SDGs ビジネス支援事業】道路整備を促進するコンクリート二次製品の導入事業に向けた普及・実証・ビジネス化事業(株式会社三幸工務店)

https://www2.jica.go.jp/ja/priv_sme_partner/document/1290/Fc192601_summary.pdf

<https://pjsez.com/>

●内容

パクセー・ジャパン経済特区でのマネジメントをされている望月氏より経済特区の概要を伺い、また、特区内の工場等の見学をしました。

●参加者の感想

- ✓ 今まで剣道の防具がラオスで作られていることを知らなかったため、他にも身近なところで、日本とラオスは繋がりがあのではないかと思った。
- ✓ 自立した発展を促す際に、技術・金銭面での支援だけではなく、こういった顔の見える(実際の現地での)支援の重要性。それが持続可能な開発につながる。



ドンコー村ホームステイ

●内容

パクセー北部にある織物の村「ドンコー村」でホームステイをしました。到着すると村の子どもたちや元村長が歓迎をしてくれ、「バーシー」という伝統的儀式の体験をしたり、ボートに乗って島を一周したりした後は、各家庭に宿泊し、村ならではの家庭での体験をしました。

●参加者の感想

- ✓ 想像していたよりは文明が進んでいたが、衝撃的なことも多くあり、研修の中で最も刺激を受ける時間となった。しあわせの形、働くことへの価値観などについて様々な考え方に触れることができた。
- ✓ 村人の表情が穏やかで、幸せに満ち溢れていた。食料を自分で調達する子どもたちがたくましかった。



8月14日(月) : 障害者職業訓練学校 / ドンカムサン教員養成校

障害者職業訓練学校

ドンカムサン教員養成校

プロジェクト名:【草の根】知的・発達障害を持つ子供の社会自立を目指したインクルーシブ教育・就労支援の実践(「アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)」)

https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/ku57pq00000x9tkg-att/lao_26_p.pdf

●内容

障害児・者支援の JICA 海外協力隊として活動する高根碧隊員や、障害のある子どもへの学力向上支援や就労支援などを行う「アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)」の中村由希さんよりお話を伺い、障害のある方々の就労の場である「みんなのカフェ」を訪れました。

●参加者の感想

- ✓ 障害者支援をされている話には心が打たれた。就業支援やパラリンピック選手の育成など社会的自立に向けた活動は、日本でも知らせていきたい。
- ✓ 高根さんのお話の中で、言語の壁は感じているが、自分の専門分野である英語教育を通して、障害者の就業支援に携わっていることを知り、様々な困難はあるが、専門分野があれば、貢献できることを知った。



8月15日(火) : 報告会

●内容

JICA ラオス事務所にて、10 日間の研修の学びや気づきをみなさんと共有しました。

●参加者の感想

- ✓ 豊かさの指標、経済的な豊かさだけでなくラオスの人々を見て家族と過ごすことや豊かさ幸せの物差しは人それぞれで良いんだということを再確認した。
- ✓ ラオス事務所長瀬所長の「言語がすべてではない」という言葉が胸に響いた。言語の裏にある文化的側面の重要性を再認識した。



ラオス交流授業案の概要

8月8日:ソーカム小学校

所属校	各校	実践者	川田・越沼・樽井・土屋・ 田母神・柳橋・深澤・白澤
実践場所	ラオス 小学校	時間	30分×2回
対象	(50名)	実践教科	国語・音楽
ねらい	日本の伝統行事や伝統的な遊びを体験し交流することで、相互の理解を深めることができるようにする。		
実践内容	時間 (分)	方法・内容	使用教材
	5	<p>事前準備として、2部屋に参加者を分ける。 それぞれの部屋で、2グループに分けて活動する。 (1グループ担当者は2名)</p> <p>1 あいさつ、導入 ラオスの言葉で自己紹介</p> <p>2 セタの短冊作りをそれぞれ行う。(15分)</p> <p>3 それぞれのグループで異なった活動を行う。(15分)</p> <p>グループ A 折り紙 グループ B わらべうた、けん玉 グループ C 宝物を紹介している動画を見せる ラオスの子どもにも宝物を紹介してもらい、その様子を撮影する。(ラオ語) グループ D 日本文化のかるた</p>	短冊、模造紙のり、はさみ紙コップ、PCスピーカーかるた等、各自用意
成果	<p><動画を通しての日本の学校との交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の子供達がラオスに興味を持ち、何人かの子供たちはサバイディーと挨拶をしてくれるようになった。 ・ラオスを好きになった、行ってみたいと感想を持つ児童が何人か増えた。 ・日本の文化を用いて、ラオスの小学生と円滑に交流することができた。 ・所属校との交流も行うことができ、国際教育に繋げることができた。 ・本校の児童が使った折り紙をプレゼントしたり、ソーカム校の児童の折り紙を持ち帰ったり、間接的だが子どもたちの交流ができた。 ・折り紙制作やカルタ遊びなどを通して、日本文化を知ってもらうことができたことは大きな成果。また、日本とラオスの子どもたちの宝物や夢について、動画を通してそれぞれの想いを伝え合うことができたことも、お互いの財産になったのではないかと感じた。 ・日本文化の紹介をするだけでなく、体験して楽しんでもらえた。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの子どもたちの夢や大切にしていることを知ることができた。 ・体験する姿からラオスの子どもたちのやさしさや器用さなど、すてきなところを垣間見ることができた。 		
感想・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・交流ができたことは大きな前進だが、実際に子供たち同士で交流ができれば、それが1番影響を与えたいと思う。 ・言語の違いがあっても、交流をすることや授業を行うことができるのだと感じた。 ・国は違っても、子どもの姿に違いはあまりないように感じた。 ・小学校の教員として、研修に参加したので、一番関心が高いプログラムだった。現地の先生 		

	<p>方の教育に対する想いに感銘を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初対面の私たちのことを心から歓迎してくれて、一つ一つの活動を喜んで行ってくれたことに感動した。国が違って、子どもたちの純粋で前向きな気持ちは変わらないのだと実感した。 ・4グループに分けたことで、参加教員それぞれの思いやねらいを実現できたのではないか。また、様々な日本文化を紹介することにつながったのではないか。 ・書字が苦手な子もいた。その子どもたちには大変な思いをさせてしまったかもしれないが、ラオスの実情を垣間見ることができた。 ・グループの子たちと密な時間を過ごし、言語を超えた交流が図れた。 ・絵本の読み聞かせが非常によかった。NPO 法人ラオスのこどもの渡邊さんの活動も、ラオスなどの途上国に必要な活動だと思った。 <p>周りで適宜、通訳してくれる方がいたので助かったが、もう少し活動に必要なラオス語の語彙を勉強していけばよかったと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地の子どもたちは、七夕飾り作りで、「折る」「切る」という簡単な作業で、様々な形をつくることのできる面白さを感じていたようであった。紙やハサミ、出来上がった作品を見て驚く様子や、称賛のジェスチャーを用いることで、言葉を介さなくとも、伝えあうことができると改めて気づいた。 ・我々教員はやはり学校現場でこそ力を発揮するので貴重な経験だった。サッカーボールをあげて喜んでいた子供たちの笑顔は忘れない。
備考	

8月9日:ラオス日本センター(LJI)

所属校	各校	実践者	土屋・田母神
実践場所	ラオス国立大学	時間	90分
対象	20名程度	実践教科	社会
ねらい	ラオスの学生と日本の学生の互いに異なる文化や背景からなる価値観に触れて、相互の異文化理解を深めること。		
実践内容	時間(分)	方法・内容	使用教材
	10 15 15 30 20	1, あいさつ、導入 ラオスの言葉で自己紹介 2, 日本の中学生の一日を動画を交えて紹介する ・動画を止めながら適宜解説を入れる。 3, 日本の文化について、動画を交えて紹介する。 ・動画を止めながら適宜解説を入れる。 4, 写真でクイズ ・上述の動画で出てきた日本の様子を簡単な日本語で説明し、それを表している写真を当てるゲームを行う。 5, メッセージ交換 ・日本の中学生からのメッセージを伝える。 ・ラオスの学生からも、ラオス良いところや将来の夢、日本の中学生へのメッセージをワークシートに書いてもらう。	プロジェクター 動画 プロジェクター 動画 写真資料 動画 ワークシート
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本について学生が興味を持ってくれた。 ・ラオスの学生と日本の文化について交流することができた。 ・中学校の先生方が主体になった授業実践だったので、勉強になった。特にICTの効果的な活用法。 ・実際に会って話すことができなくても、日本の生徒からの動画や授業後にラオスの学生たちが書いた日本語でのメッセージを通して「対話」をすることができていたと思う。どんな形でも繋がりを覚えることは相手を知る第一歩になるのだろう。 ・日本のことを紹介する中で、ラオスの学生の日本に対する関心の高さや情報源、学び方などを知ることができた。 ・ラオスの学生を通して、日本のよさを再認識することができた。 ・ラオスの学生が書いてくれたメッセージから、人のあたたかさや、つながりを感じることもできた。 ・日本文化の紹介や日本の学校の紹介を通して異文化理解が進んだと思う。写真カルタで盛り上がり、心が打ち解けたところで、日本語で各々交流しているのが1番良かった気がした。 ・生徒の関心のありそうな内容を教材として扱ったことで、とてもよく注目して聞いていた。また、活動的な内容を含んだことで(カルタ)、生き生きと楽しそうに活動する生徒たちの姿を見ることができた。 ・大学生が日本に抱いているイメージをつかむことはできた。日本はアジアを牽引する立場として模範的な行動をするべきであると実感をした。非常に真面目で日本についても知識が豊かであると感じた。 		

感想・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・スターバックスはラオスにとって高く、なかなか行けない。 ・学習への意欲が非常に高く、見習うべきこと。 ・ラオスの学生の方が日本について詳しい場面があったことから、自国への理解が不足していることに改めて気がついた。 ・行く前の話と、生徒さんの実態に差があった。聞いていたより、日本語が上手で驚いた。 ・学生たちの日本語力が非常に高いことに驚いた。また、日本にこんなにも興味を持ってくれる人たちがラオスにもいるということをととても嬉しく思った。日本で起業したいという高い志を持った学生にも感銘を受けた。 ・日本語という共通言語があることで、こちらからも質問することができ、知りたいことを知ることができた。 ・ネットワークを活用してラオスの学生からのメッセージを集約していたところに感心した。 <p>ラオスの大学生は、事前に打ち合わせしていたよりも日本語が堪能だった印象を受けた。もう少し高度な内容でもよかったかもしれないと感じた。</p> <p>日本の中学校の生活に非常に関心を示している様子であった。自国の文化に興味を持って学んでくれることの嬉しさを感じたので、勤務校の子供たちにもそのことを伝えたいと思った。このような学生がいることを日本の学生も知るべきである。中学生が作成したスライドや動画が授業で効果的だった。これからも継続して交流できる機会を構築していきたい。</p>
備考	